



編集・発行
県南教育事務所



「生き抜く力を育む 子ども第三の居場所 はなまるはうす」

埴町教育委員会教育長 秦 公男

埴町では、B & G財団の支援を受け、令和5年5月に家でも学校でもないもう一つの居場所、埴町子ども第三の居場所 b & g はなわ「はなまるはうす」を開設しました。

子ども第三の居場所とは、子どもたちの孤立しやすい放課後の時間に家でも学校でもない場所で、信頼できる大人や友達と安心して過ごし、子どもたちが将来の自立に向けて「生き抜く力」を育む場所です。生き抜く力の育成は、子どもたちに基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己肯定感や人や社会と関わる力、所謂、非認知能力を高めることとされています。「はなまるはうす」は、教育施設ではありませんので、学習や運動の強制はありません。日々の宿題をすることは前提ではありますが、その他の好きな学習をするのも自由です。好きな本を読んでも、昼寝をしても構いません。学校であったことをスタッフの大人に相談することもできます。自然と子どもたちが集まる場所として、どんなときでもスタッフが待っています。話したくなければ話さなくてもスタッフがそれをそっと見守り、優しく寄り添うことを基本にしています。

「はなまるはうす」は、豊かな心と健やかな身体を育むことをコンセプトに、月水金の週3日間、午後2時から午後8時までの6時間開設しています。希望により1食百円の夕食も提供しています。また、子どもたちの体験格差を少なくするために次の5つの機会をつくっています。

- ①安全安心な場所であること
 - ②食事の提供を行うこと
 - ③基本的な生活習慣を整えること
 - ④学習習慣を定着させること
 - ⑤子ども第三の居場所だからこそできる活動を行うこと
- 以上の5つの機会をもとに、様々なイベントやプログラムを企画しています。子どもたちの自己肯定感を高め、興味のあること、分野をどんどん伸ばしていけるようサポートを行っています。

子どもたちの中には、学校にも家庭にも居場所がないと感じている子がいます。その子どもたちは声をあげることができません。寂しい、辛いなどそんな声をあげられない子どもたちを受け止め、温かい食事と見守りとを提供するのが子ども第三の居場所「はなまるはうす」です。子どもたちには生きる力があります。心と体に栄養と温かい眼差しが癒しとなり、暫くの間、周りの大人が子どもたちを支え、やがて子どもたちは、自らの置かれた状況を打開していく力を身につけていくことでしょう。「はなまるはうす」は、そんな子どもたちを物と心の両面で支える場所です。

埴町では、これからも町内外の皆様のご支援のもと様々な子どもたちが力強く未来に羽ばたいていけるよう末永く支援して参ります。

令和6年度教育・文化関係表彰

□ 文部科学大臣表彰

- 地方教育行政功労者
西郷村教育委員会委員 勝又 千賀子
- 優秀教職員表彰(個人)
棚倉町立棚倉小学校 教諭 藤田 由紀
西郷村立西郷第一中学校 教諭 宮川 智典

□ 県教育委員会表彰

- 地方教育行政功労者
西郷村教育委員会委員 佐藤 敏巳
- 学校教育功労者
白河市立白河第一小学校校長 西牧 泰彦
白河市立白河第二中学校校長 小野 聡
- 社会教育功労者
泉崎村社会教育委員長 古宇田 榮増

- 教育・文化関係表彰(優秀教職員の部)
西郷村立熊倉小学校 養護教諭 荒井 真紀子
中島村立滑津小学校 教諭 渡辺 美千代
棚倉町立棚倉中学校 教諭 山澤 秀樹

- 永年勤続教職員表彰
小・中学校18名
県立学校 6名

- 教職員研究論文
(団体)【入選】西郷村立羽太小学校
(個人)【奨励賞】矢吹町立三神小学校 教諭 大河原 旭

- ふくしまっ子体力向上優秀校表彰
西郷村立熊倉小学校 矢吹町立三神小学校
埴町立埴小学校
- ふくしまっ子ごはんコンテスト学校賞
白河市立小田川小学校 埴町立笹原小学校
棚倉町立棚倉中学校
- ふくしまっ子元気大賞表彰・食育推進優秀校(優秀賞)
白河市立小野田小学校

□ 県学校歯科保健優良校表彰

- 特別表彰 西郷村立米小学校
- 最優秀賞 西郷村立羽太小学校
- 努力賞 白河市立白河第一小学校 白河市立釜子小学校
中島村立滑津小学校 白河市立東中学校
中島村立中島中学校 棚倉町立棚倉中学校
- 奨励賞 埴町立笹原小学校
- 活動奨励賞 白河市立五箇小学校 中島村立吉子川小学校
白河市立白河南中学校

□ 県学校保健会表彰

- 学校保健功労者
学校医 近藤佳夫(西郷村立米小学校他)
大木晴夫(棚倉町立棚倉小学校他)
- 学校歯科医 角田 隆(白河市立白河第四小学校)
海野茂雄(西郷村立羽太小学校)
- 学校薬剤師 今井源左武郎(白河市立白河第二中学校)
藤田佳子(白河市立小田川小学校)
- 養護教諭 大竹いづみ(西郷村立西郷第一中学校)
- 学校保健会感謝状
前学校歯科医 鈴木 明(西郷村立米小学校)

□ 第27回よい歯の幼稚園・認定こども園表彰

- 努力賞 中島村立中島幼稚園

夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進 学校教育課 令和6年度事業の成果

道徳教育と生徒指導の相互関係

今年度は「不登校の未然防止」と「学校教育全体で取り組む道徳教育の推進」を重点として、各校への支援に取り組んでまいりました。

「不登校の未然防止」については、生徒指導訪問を通して、各校の不登校児童生徒の状況把握や支援計画について協議を行いました。特に、学校が抱える複雑化・多様化した課題に「チームとしての学校」で対応することの重要性を確認しました。学校がチームとして機能するために、教職員同士はもとより、教職員と関係機関（SC、SSW等も含む）や地域の人々が連携・協働して教育活動を展開することが必要です。

また、「チームとしての学校」については、教育相談コーディネーター研修会（県中・県南）において、石隈利紀教授（東京成徳大学）より、「連携・協働することで、学校ができることは増える」とご教授いただきました。

「学校教育全体で取り組む道徳教育の推進」については、東北中学校を会場として開催した道徳教育地区別推進協議会において、道徳性や道徳的実践力を培う道徳教育の実践や道徳教育推進教師の役割についての協議、学校・家庭・地域の連携をテーマとした講演を設定しました。保護者や地域住民にも参加していただき、道徳教育の充実について研修を深めることができました。

「健康マネジメント能力の育成」

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、県南域内の体力・運動能力は、下の表のとおり、小5・中2男女ともに全国・県平均を上回りました。これは、体育・保健体育の授業はもちろんのこと、体力向上に向けた学校全体としての取組の成果であります。また、運動習慣等調査の結果では、県内全域において「健康的な生活に対する意識」の項目が、全ての調査学年男女で全国平均を上回り、自分手帳を活用した健康マネジメント能力の育成に向けた取組の効果が大きいと考えられます。肥満傾向児出現率においては、小中学校男女ともに前年度より改善傾向にあるものの、依然として全国平均を上回る状況にあります。今後も、体育・保健体育の授業の工夫改善や自分手帳を効果的に活用した健康マネジメント能力の育成を進めていただきたいと思います。

	小学校5年男子		小学校5年女子	
県南合計得点	52.82		56.13	
全国得点・県南比較	52.54	0.28	53.93	2.20
県得点・県南比較	52.04	0.78	54.46	1.67
R5得点比較	53.46	▲0.64	56.44	▲0.31
	中学校2年男子		中学校2年女子	
県南合計得点	42.61		48.20	
全国得点・県南比較	41.69	0.92	47.22	0.98
県得点・県南比較	42.00	0.61	47.71	0.49
R5得点比較	41.88	0.73	48.43	▲0.23

	出現率
小学男子	14.2
(前年比)	▲1.1
小学女子	11.1
(前年比)	▲1.0
中学男子	14.6
(前年比)	▲0.5
中学女子	10.1
(前年比)	▲1.7

資質・能力の育成と学力向上

今年度は、学力向上担当者等研修会を10月15日に第1回、12月10日に第2回と年2回開催しました。

第1回は、ふくしま学力調査の特徴や分析方法について演習を中心に研修を行いました。ふくしま学力調査の分析ツール「分析支援プログラム」の活用について理解を深める機会となりました。研修会後、各校で分析を行っていただくと共に、今後の学力向上策を検討いただきました。それを踏まえ、第2回は、グループ協議を行い、今後の授業、学級経営、家庭学習等の改善・充実について話し合いを行いました。また、表郷中学校の令和3・4年度の理数教育優秀教員の菊田和貴先生の実践発表、福島大学人間発達文化学類の坂本篤史准教授による「主体的・対話的で深い学びと資質・能力の育成」の講演により研修を深めることができました。参加者からは、

- ・教師が話しすぎないようにし、児童・生徒の話し合いを大切に授業を行っていくように、校内で共有を図りたいです。
- ・全教職員が同じ方向を向いて子どもたちの指導をしたい。すぐに実践できそうなことは、先生方に広めていきたい。

等の感想をいただきました。主体的・対話的で深い学びと学力向上に向けたヒントを持ち帰っていただける研修会になったことをうれしく思います。ぜひ、本研修会での学びを各校の学力向上推進計画作成に生かしていただきたいと思ひます。

「特別支援教育の充実」

今年度は「多様な学びの場における教育の充実・整備の推進」と「切れ目のない支援の充実」を重点にあげ、様々な取組を行ってまいりました。

「多様な学びの場における教育の充実・整備」に向けては、各種訪問における指導助言の他、担当者の専門性向上を目指し、地域支援体制整備事業による相談・研修支援に取り組んでまいりました。12月末現在の相談支援依頼件数は、延べ93件となっております。そのうち、通常の学級からの依頼が79件、全体の76%を占めます。昨年度と同じ時期よりも6ポイント増加しており、特別支援教育に求められる役割がますます大きくなっています。ご活用いただいた学校からは、「相談で助言いただいたことを実践したことで、子どもが変わった。何よりも担当者の指導・支援が変化し、改善された。」といった声もいただきました。

「切れ目のない支援の充実」に向けては、4月に個別の教育支援計画の作成・活用を啓発するリーフレットを各園・学校へ送付させていただきました。全家庭へ印刷・配付くださる等、積極的にご活用いただいた学校も見られました。また、教育委員会による研修会の支援において、個別の教育支援計画の活用に関する講話や演習に取り組み、引継ぎ・活用に必要な好事例を共有することもできました。11月にご協力いただいた体制整備状況調査によりますと、県南地域の特別支援学級及び通級指導教室における個別の教育支援計画の作成率が100%に達しております。支援を必要とする児童生徒が安心して学び続けることができるよう、引継ぎ・活用もよろしくお祈りします。

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるために ～コミュニティ・スクール(CS)と地域学校協働活動の一体的推進～

今年度もコミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査(調査基準日令和6年5月1日)が文部科学省より公表されました。その調査内容と県南地区の状況を比較すると次のようになります。

① 全国公立小・中・義務教育学校におけるコミュニティ・スクールの導入率(県南地区:51校中34校)

【全国 65.3%(前年度より+7.0) 福島県 47.3%(前年度より+2.2) 県南地区 66.6%(前年度より+7.0)】

② 全国公立小・中・義務教育学校における地域学校協働本部整備率(県南地区:51校中37校)

【全国 74.5%(前年度より+3.4) 福島県 78.5%(前年度より+4.7) 県南地区 72.5%(前年度より+12.9)】

県南域内のコミュニティ・スクールの導入率は全国・県より高い数値となっています。コミュニティ・スクールとは「学校運営協議会を置く学校」と定義づけされていますが、導入することで子どもたちの学習活動が充実したり、学校を核とした地域づくりが進んでいたりする一方で、なかなか軌道に乗ることができない、推進する上で課題を感じている学校や市町村があるのも事実であるかと思えます。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図るためには、現在行っている活動が、単なる学校支援になっていないか、検証・検討する必要がある、学校運営協議会の熟議などを通して、地域や学校の課題を共有し、共通の目標をもって実践していくことが望めます。教職員や行政職員が変わっても、持続可能な仕組みを構築することが大切です。

【今年度の取組より】地域連携担当教職員等研修会 12/13

文部科学省CSマイスターの猿渡智衛氏を講師に招き、講義・演習を行いました。講義では、猿渡氏自身が粕葉町において取り組んだ事例を取り上げ、どのような視点でよりよいものに改善を図ってきたかなど、具体的な実践についてお話をいただきました。演習では、参加者それぞれが、自校における地域課題を考え、子どもたち・学校・地域のウェルビーイングの姿をイメージした上で、効果的な地域学校協働活動を計画する方法等について学ぶ機会を設けました。



学校紹介

「よりよい自分に向かって」

西郷村立小田倉小学校

「よりよい自分に向かって、互いに支え合い、高め合う児童の育成」は、本校の教育目標です。

子どもたちは、「人・もの・こと」との関係の中でよりよい自分になりたいという思いや願いをもち、学校生活において様々な活動に取り組んでいます。

授業では、「かかわり合いの中で、分かった・できたを実感できる学習」を目指し、互いの考えを進んで交流し、理解を深めようと真剣に取り組んでいます。

また、休み時間には、校庭でたくさん遊ぶことを通して体力向上に取り組んでいます。子どもたちの遊びの姿からは、上級生が下級生と遊ぶ姿がよく見られ、下級生が上級生を慕う様子が強く感じられます。道徳教育の土台として、人権教育に力を入れているのも本校の特色です。毎月一日には、自分や友だち等の人権について考えたり、話し合ったりしています。

きっと、子どもたちは、よりよい自分、成長した新しい自分に何度も出会うことができるのではないのでしょうか。



「受け継ぐ150年の想い、未来へつなぐ二小の心」

泉崎村立泉崎第二小学校

今年度、泉崎第二小学校は創立150周年を迎えました。

本校は、明治7(1874)年8月20日に創立しました。関和久村の雲月寺に開学した関和久小学校と、北平山村の法輪寺に開学した北平山小学校が両村の合併を機に、関平尋常小学校(のちの関平小学校)となり、昭和29(1954)年に、現在の「泉崎第二小学校」に校名を変更しました。

さて、創立記念日となる8月20日(火)には、村の学校支援ボランティアの方々にご協力いただき、150周年記念集会を行いました。当日は、縄もじりやぶんぶんごま、あやとりなどの昔遊びをとおした地域の方々との交流を行い、一緒に創立記念日を祝いました。地域の中で地域とともに子どもたちを育てていくという、泉崎二小の変わらぬ教育の姿を感じ取ることのできるひと時となりました。

最後に、150周年を迎えるにあたり、伝統と歴史を紡いでこられた地域の皆様に感謝し、新しい時代を担う136名の子どもたちの未来に幸あらんことを願います。



一年を振り返って～新任の先生方から～

「みんな笑顔の学校」



白河市立釜子小学校

校長 唐橋 浩二

11月にひがし商工会青年部主催の釜子小学校・小野田小学校創立150周年記念イベントが開催されました。改めて地域の学校として地域の方々に大切にされていることや本校の長い歴史を知り、校長としての責任の重さを実感しました。みんな笑顔の学校にするため校長として何をすべきなのか、まずは、子どもたちが自分の良さを発揮して笑顔で学校生活を送れるようすることだと考え、学校生活の様々な場面において、全教職員で「ほめて、認めて、価値付ける」指導・支援を今後も継続していこうと共通理解・共通実践しているところです。

「『チーム塙』で連携」



塙町立塙中学校

校長 石田 富加志

新任校長として塙中に赴任し、1年前まで教頭として勤務していた時と違い、責任の重みと教職員、保護者、町の期待を強く感じました。校訓である「自主、自律」を積極的に声にして、全校で取り組んでいます。小学校とも連携し、塙町の研修会だけでなく、お互いに行事等で行き来したり、楽器の指導に中学生が手伝いに行ったりと充実していました。祭りやふくしま駅伝でも教職員や生徒、町の皆さんが一つになり感動しました。『チーム塙』の中学校として今後も成長し続けていきたいです。

「真っ最中！」



矢祭町立矢祭小学校

教頭 鈴木 隆志

矢祭小学校に着任して1年が経とうとしています。雄大な戸津辺の桜。静かに鳴り響く虫の声。どこまでも広がる紅葉。清々しい朝の空気。「教頭先生おはようございます！」元気のいいあいさつをする子。「教頭先生、一緒にお弁当食べよう！」優しく声をかけてくれる子。「教頭先生、授業楽しみです！」主体的に学ぶ子。「教頭先生、これどうしたらいいですか？」確認しながら仕事を進めようとする先生方。「子どもたち、とっても明るくて素直ですね！」学校を支えてくださる地域の方々。

私は今、子どもたちに、先生方に、矢祭町に、教頭にしてもらっている真っ最中です。

「寄り添って」



福島県立西郷支援学校

教諭 笹島 彩音

この1年、新たな出会い、様々な出来事、日々の関わり、そのどれもが大切な経験であり、一つ一つに学びがありました。その中で、「寄り添う」ことの大切さを実感しました。子どもの発信を受け止め、共感すること。保護者と子どもの成長を共に喜び合ったこと。考え悩んだ際、先生方から丁寧に助言いただいたこと。その全てが子どもの成長に寄与し、可能性の伸長へとつながっていることを学びました。

子どもに、保護者に、同僚に、丁寧に寄り添うことのできる教育者を目指して、これからも貪欲に、謙虚に学び続けていきたいと思えます。

令和6年度各種事業及び研究指定校紹介

- | | | |
|--------------------------------|---------|---|
| ○ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業 | 〈本務校〉 | みさか小 矢吹小 棚倉小 西郷一中 |
| ○道徳教育総合支援事業 | 〈推進校〉 | 東北中 |
| ○人権教育総合支援事業 | 〈推進地域〉 | 矢祭町教育委員会 やまつりこども園 矢祭小 矢祭中 |
| ○イノベーション人材育成推進教員活用事業（算数・数学） | 〈実践校〉 | 塙小 白河二中 |
| ○イノベーション人材育成推進教員活用事業（理科） | 〈実践校〉 | 白河二小 鮫川中 |
| ○不登校・いじめ等対策推進事業：スハ°シャルサホ°ートルーム | 〈実践校〉 | 白河二小 白河二中 矢吹中 棚倉小 白河中央中（特例定員対応） |
| | 〈村への派遣〉 | 鮫川村 |
| ○学力向上支援アドバイザー事業 | 〈配置校〉 | 棚倉小 社川小 近津小 棚倉中 |
| ○専門教育魅力発信応援事業 | 〈体験校〉 | 泉崎二小 近津小 東中 |
| | 〈実施校〉 | 白河実業高校 修明高校 |
| ○「“ひがししらかわ”輝くふる郷」体験事業 | 〈実践校〉 | 東白川郡内全小学校 8校 |
| ○スクールソーシャルワーカー緊急派遣事業 | 〈委託〉 | 西郷村 中島村 矢吹町 棚倉町 塙町 矢祭町 |
| ○スクールカウンセラー派遣事業 | 〈配置校〉 | 白河二小 みさか小 表郷小 熊倉小 小田倉小 滑津小 中畑小 三神小 矢吹小 善郷小 泉崎一小 棚倉小 塙小 域内全中学校 |

